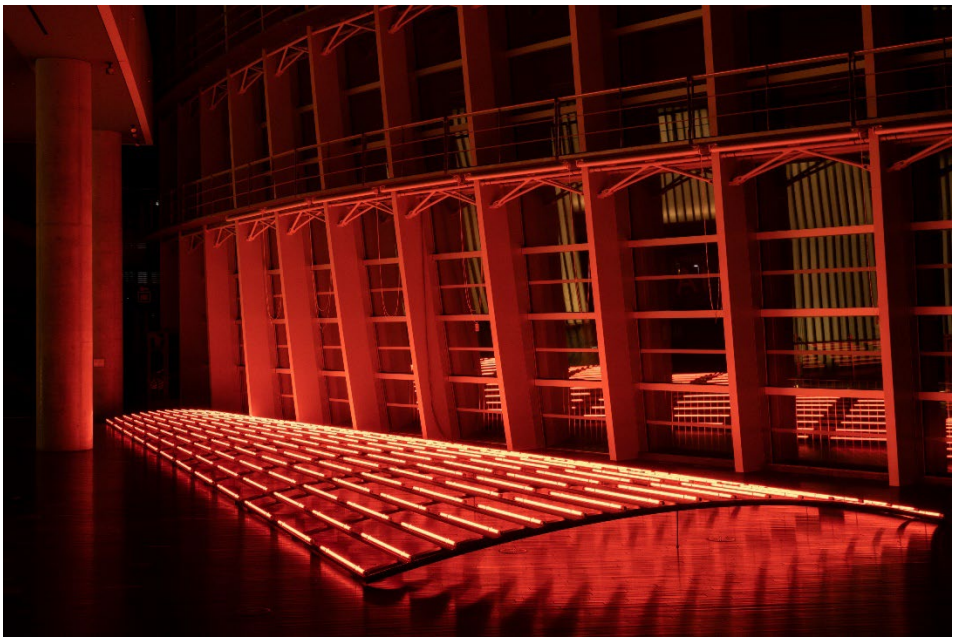
PRESS RELEASE 2022.10.11

NACT View 01 玉山拓郎　Museum Static Lights

展示期間：2022 年 9 月 14 日（水）～12 月 26 日（月）



1.玉山拓郎《Museum Static Lights : The National Art Center, Tokyo》2022 年 国立新美術館 展示風景 撮影：大町晃平

新進気鋭の現代美術家・玉山拓郎が魅せる光の空間
国立新美術館のパブリックスペースのイメージを大胆に変化させる
新作インスタレーションを展示

国立新美術館では 2022 年より新規事業として美術館のパブリックスペースを使った小企画シリーズ「NACT View」を開催いたします。黒川紀章氏が設計した建築は、スペクタクルでありつつ、細部にまで意匠が凝らされています。多くの人が憩い、通り抜ける広場のようなパブリックスペースで、多くの皆さまに楽しんでいただけるよう、若手から中堅の美術家、デザイナー、建築家、映像作家を招聘し、現代の多様な表現をご紹介します。

その第 1 回目には既存の空間を見知らぬ風景に変容させることを得意とする玉山拓郎による、新作インスタレーションをエントランスロビーにて展示します。これまで、玉山は日用品や家具といった既製品や鮮烈な色彩を放つ蛍光灯を組み合わせることで、空間自体を体感させるような作品制作を行ってきました。今回の展示では高さ 16m、8mの逆円錐形をした、美術館ロビーのなかでも中心的な存在感を放っている 2 つのコンクリートコーンに着目しました。玉山はこのコーンの形状をモチーフとして扱い、美術館の空間全体にまで意識を促すような効果を及ぼす光の作品を生み出します。

■作家プロフィール

玉山拓郎（たまやま・たくろう）

2.Photo courtesy: Sony Park Mini

1990 年、岐阜県生まれ。東京都在住。

愛知県立芸術大学を経て、2015 年に東京藝術大学大学院修了。

身近にあるイメージを参照し生み出された家具や日用品のようなオブジェクト、映像の色調、モノの律動、鮮やかな照明や音響を組み合わせることによって、緻密なコンポジションを持った空間を表現している。近年の主な展覧会に、「Static Lights : Unfamiliar Presences」（Sony Park Mini、2022）、「2021 年度第 3 期コレクション展」(愛知県美術館、2022)、「Anything will slip off / If cut diagonally」(ANOMALY、2021)、「開館 25 周年記念コレクション展 VISION Part 1 光について / 光をともして」（豊田市美術館、2020）がある。

■開催概要

「NACT View 01 玉山拓郎　Museum Static Lights」

展示期間	:	2022 年 9 月 14 日（水）～12 月 26 日（月）
休 館 日	:	毎週火曜日
公開時間	:	美術館の開館時間に準ずる
展示会場	:	国立新美術館　1 F ロビー（東京都港区六本木 7－22－2）
観 覧 料	:	無料
主　　催	:	国立新美術館
協　　力	:	ANOMALY、ライティング ルーツ ファクトリー株式会社
企　　画	:	小野寺奈津（国立新美術館 特定研究員）
お問い合わせ	:	050-5541-8600（ハローダイヤル）
ウェブページ	:	https://www.nact.jp/2022/nactview-01/

■展示のみどころ

・新たな風景を生み出す新作インスタレーション

玉山の作品によって、多くの人が訪れる美術館のエントランススペースのイメージを大きく変化させます。

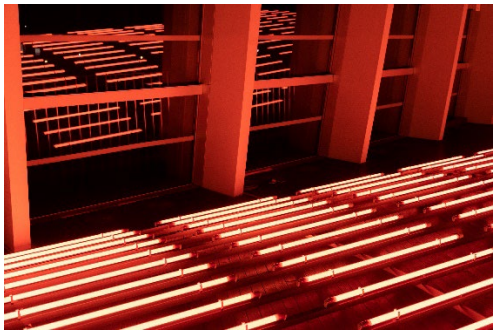
・美術館の空間全体を意識させる光の作品

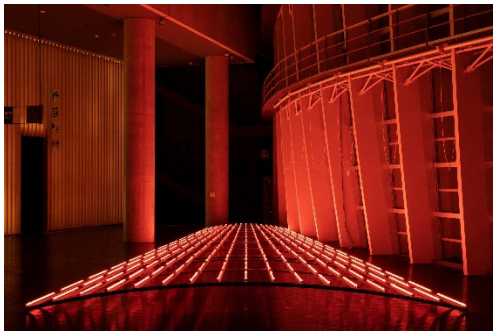
エントランススペースで存在感を放つ２つの逆円錐形コーンを表す蛍光灯のオブジェがロビーに設置されます。時間帯によって見え方が異なるオレンジの光が鑑賞者の意識を美術館の空間全体にまで誘います。

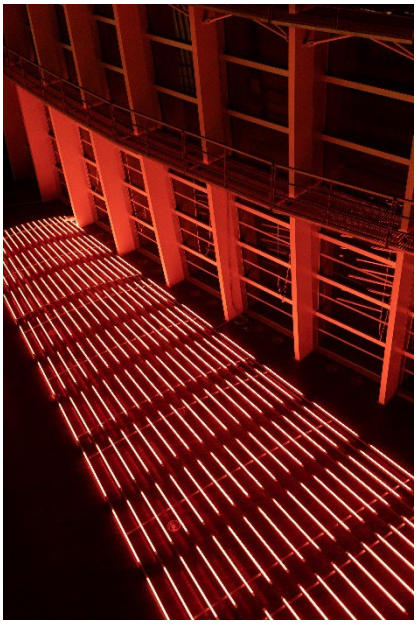
■展示作品

《Museum Static Lights : The National Art Center, Tokyo》

今回、玉山は国立新美術館のエントランスロビー内にあるコンクリートコーンに着目して作品制作を行いました。美術館の中心部にある高さ 16m、8mの２つのコーンを表す蛍光灯のオブジェが、それぞれのコーンに呼応するかのように美術館ロビーの両端に設置されます。この蛍光灯のオブジェは日中は外光の明るさに溶け込み、また日が暮れた頃には発光するような存在感を発揮するため、訪れる人が持つ印象は時間帯によって大きく異なります。ロビーに広がる蛍光灯の光は、建物の外からも垣間見ることができます。玉山の作品によって美術館の周囲に新たな風景が生まれます。「六本木アートナイト 2022」の期間中*は２つのコンクリートコーン自体もオレンジに照らされ、空間のさらなる連動が見られるでしょう。 *9 月 17 日(土)~9 月 19 日(月・祝)

3


4


5


3.4.5.玉山拓郎《Museum Static Lights : The National Art Center, Tokyo》
2022 年 国立新美術館 展示風景 撮影：大町晃平

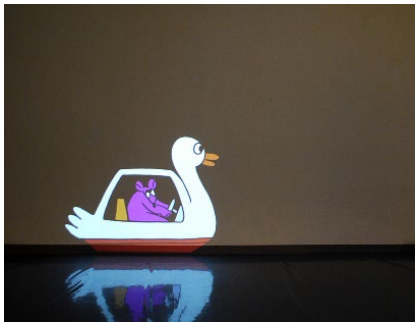
■「NACT View」とは

「NACT View」は、若手から中堅の美術家、デザイナー、建築家、映像作家といった様々なジャンルの作家を、国立新美術館のパブリックスペースを使用して紹介する新たな小企画シリーズです。シリーズ名は、英語の館名「The National Art Center, Tokyo」の略称「NACT」と、「眺め、風景／見方、考え方」を意味する「View」に由来します。国立新美術館のパブリックスペースは、展覧会を鑑賞する人だけでなく、カフェやレストラン、ライブラリーといった施設の利用者から、ただ建物を通り抜ける人まで、様々な人が行き交う場所です。「NACT View」は、このような空間に作品を展示することで、美術館を訪れるあらゆる人が、気軽に現代の表現に親しめる機会となることを目指しています。今後、本シリーズと連動したワークショップやトークなども行っていく予定です。

■次回の予告

「NACT View 02 築地のはら」

期間：2023 年 1 月～5 月（予定）



6.「NEZUMIMUZEN」2020 年　© TSUKIJI Nohara　（参考画像）

第 2 回目には、2 次元と 3 次元の融合をテーマに、実写にアニメーションを合成した映像やプロジェクションマッピングなど新しい切り口の作品を制作するアニメーション作家・築地のはらの作品を展示します。

ウェブページ：https://www.nact.jp/2022/nactview-02/

■作家プロフィール

築地のはら（つきじ・のはら）

1994 年、神奈川県生まれ。

東京造形大学 アニメーション専攻を卒業後、東京藝術大学大学院 メディア映像専攻を修了。

2 次元と 3 次元の融合をテーマに、アニメーション(主にねずみのキャラクター)を用いて面白い表現を模索している。修了制作「向かうねずみ」では第 6 回 新千歳空港国際アニメーション映画祭 日本グランプリ、第 23 回 文化庁メディア芸術祭 アニメーション部門　新人賞 などを受賞。2021 年には初の個展「のはらのはらっぱ」（町田パリオ）を開催。

■広報用画像

広報用画像をご提供いたします。 ご希望の方は下記をお読みの上、お申し込みください。

<画像ご使用に関する注意事項>

- 広報用画像の使用目的は、プロジェクトおよび展示のご紹介のみとさせていただきます。展示期間終了後、上記の使用目的外では使用できませんのでご了承ください。
- 広報用画像使用の際は、各画像のキャプションとクレジットを必ず掲載してください。
- 広報用画像は全図でご使用ください。文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません。
- ウェブサイトに掲載する場合は、コピーガードを施してください。コピーガード対応が出来ない場合には、72dpi 以下の解像度にしてご掲載ください。
- 基本情報と画像使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で国立新美術館 広報・国際室までお送りください。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープを１部お送りください。
- 画像使用後は、データを破棄してください。
- 掲載後、再放送や転載をされる場合は、広報・国際室までご連絡ください。

最新の広報用画像をご希望の方はこちら

https://forms.office.com/r/5K1HwjyF32

報道関係のお問い合せ先

国立新美術館　広報・国際室　〒106-8558　東京都港区六本木 7-22-2

TEL:　03-6812-9925（平日 10:00～17:00）　FAX:　03-3405-2532　Email:　pr@nact.jp